

令和4年3月30日

オゼンピック皮下注 SD の出荷停止に伴い類薬に切り替えた際の
投与開始量について

一般社団法人日本糖尿病学会
公益社団法人日本糖尿病協会

持続性 GLP-1 受容体作動薬「オゼンピック皮下注 0.25mg SD、0.5mg SD、1.0mg SD」製造会社による同製品の製造と輸出一時停止による出荷停止に伴い、投薬を受けていた 2 型糖尿病患者が他の GLP-1 受容体作動薬に切り替えざるを得ないケースが生じています。

切替え先の薬剤の用量が漸増規定となっている場合、血糖コントロールの悪化を防ぐため、投与開始時から維持量で投与する必要性が高いと医学的に判断される場面が少なくないと想定されます。多くの場合ベネフィットが期待されますが、以下の点に留意が必要です。

1. 代替薬投与にあたっては、血糖自己測定または血液検査等で適宜血糖値をモニターし、急激な血糖コントロールの悪化に注意すること。
2. 胃腸障害が発現し持続する場合、減量を考慮し、さらに症状が持続する場合は、休薬を考慮すること。1～2 日間の減量又は休薬で症状が消失すれば、減量前又は休薬前の用量の投与を再開できる。
3. 経口 GLP-1 受容体作動薬について、注射薬から切替え時に維持量で投与を開始した際の胃腸障害の頻度は不明であり、慎重に経過を観察すること。

以上